

An aerial photograph of a city, likely Fuchu, Japan, is shown with a semi-transparent blue overlay. The city's layout, including roads, buildings, and green spaces, is visible through the blue tint. A dark blue rectangular box is positioned in the center of the image, containing the chapter title.

第 5 章

第 3 次富谷市地方創生総合戦略

1

総合戦略の策定趣旨と位置付け

富谷市地方創生総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づき策定する地方版の総合戦略です。

本市では、将来にわたって活力ある地域を維持していくことを目的に、平成27（2015）年に市総合戦略を、令和3（2021）年には第2次総合戦略を策定し、地域の魅力を生かした雇用の創出、交流人口の拡大、子育て・教育環境の充実など、地方創生につながる取組を推進してきました。

本市の将来像である「住みたくなるまち日本一～100年間ひとが増え続けるまち～」を達成するため、第3次総合戦略は、第2次富谷市総合計画と統合して策定し、一体的な推進を図るとともに、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、前期基本計画における創生法の趣旨を反映した重点的な施策を戦略として位置付けて、総合的かつ効率的に推進します。

なお、総合戦略の期間は前期基本計画と合わせ、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

■第2次富谷市総合計画

期間：令和8（2026）年度～令和17（2035）年度（10年間）

住みたくなるまち日本一を目指し、人口増加の将来目標の達成を視野に入れた、10年後の富谷市が目指す将来像の実現に向けたまちづくりの目標とまちづくりの方針を明確にし、市民と理念を共有しながらまちづくりを実施していきます。

■第2次富谷市総合計画・前期基本計画

期間：令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）

総合計画が目指すまちづくりの具現化に向け、当初の5年間で実施すべき具体的な施策を定め、計画に沿って着実に実施していきます。

■第3次富谷市地方創生総合戦略

期間：令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）

「まち・ひと・しごと創生法」の趣旨に即し、前期基本計画の中でも特に人口増加に向けて即効性のある、効果的な事業を抽出し、明確な達成目標を定めながら、5年間で戦略的に実施していきます。

2

人口の現状と将来展望

人口の現状

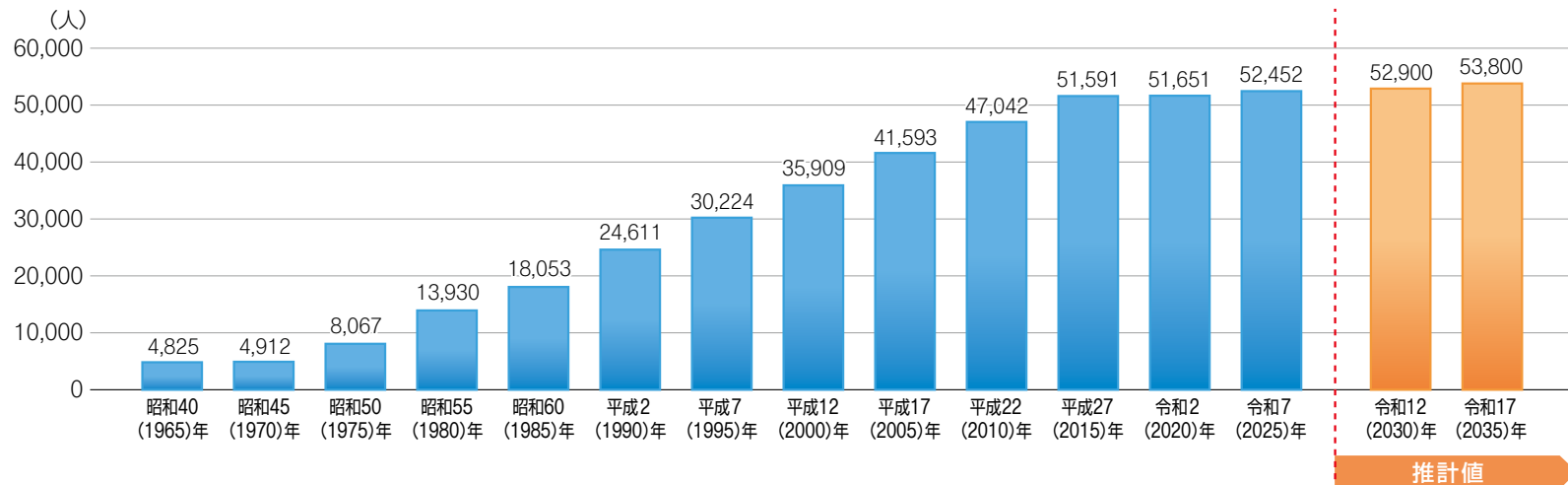
本市の総人口は、昭和15（1940）年までは4,000人前後で推移していましたが、昭和22（1947）年に5,000人を超え、その後は昭和45（1970）年まで横ばい傾向で推移していました。昭和50（1975）年以降は大規模な宅地開発の進展により大幅な増加傾向が続き、平成27（2015）年には50,000人を突破し、翌年の平成28（2016）年には単独で市制施行しました。

市制施行以降は、明石台東地区の住宅地整備や子育て支援、学校教育の充実などに取り組むことにより子育て世帯の転入が進んできた一方で、大学進学や就職に伴い、若者が転出する傾向が強まっており、人口の伸びは微増傾向となっている状況です。

人口の将来展望

今後は、本市においても少子高齢化の進行が予想されますが、新たな住宅地の整備や積極的な子育て施策の推進、企業誘致等による地域経済活性化と雇用創出など、本戦略に掲げる施策等を推進することにより、着実な人口増加を図り、令和42（2060）年の人口6万人を目指します。

富谷市の人口ビジョン



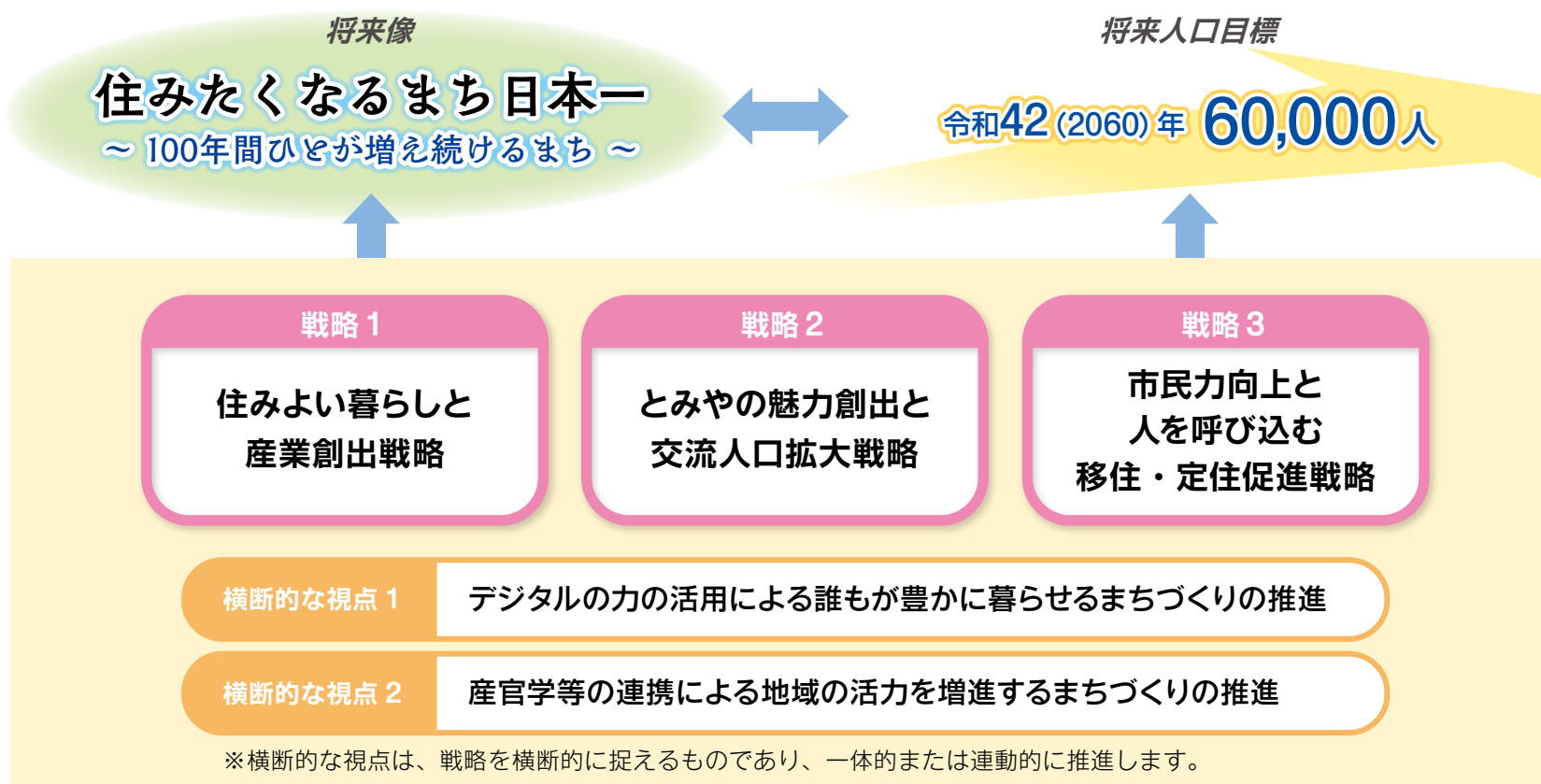
※令和2年までは「国勢調査」、令和7年は住民基本台帳に基づく実績値（令和6年12月末時点）
令和12年からは「第3次富谷市人口ビジョン」における将来推計人口の目標値（100人未満切り捨て）

3 将来像と将来人口の実現に向けた戦略

総合計画に掲げた本市の将来像である「住みたくなるまち日本一～100年間ひとが増え続けるまち～」及び令和42（2060）年時点の将来人口6万人の実現に向けて、前期基本計画の中に第3次総合戦略を位置づけ、人口増加に向けた着実な発展を目指します。

第2次総合戦略の取組状況を踏まえつつ、国の方向性や宮城県総合戦略等も勘案して、以下の3つの戦略と2つの横断的な視点により、全庁一体となった体制づくりで取組を推進します。

また、取組指標を前期基本計画における成果目標と同一とすることにより戦略との関連性を明確にし、一体的な推進を図ります。



戦略1

住みよい暮らしと産業創出戦略

市民が身近な地域で働くことができるよう、成田二期北工業用地への多様な企業の誘致を積極的に展開し、雇用の創出や地域経済の活性化を図るとともに、富谷市まちづくり産業交流プラザ・TOMI+（とみぶら）、富谷市ビジネス交流ベース・NIYADO（荷宿）を拠点に、起業塾「富谷塾」による起業・創業支援を充実し、新たな産業の創出を図ります。

また、緑豊かな自然環境の保全や環境にやさしい生活を推進するとともに、自然と調和のとれた成田二期東・西地区等の新たな住宅地の整備や大亀山森林公園の公園機能の充実、都市型自走式ロープウェイなど新たな軸となる基幹公共交通システムの整備検討などに取り組みます。

職住近接や住みよい暮らしを実現することにより、働きやすさを実感でき、市民のウェルビーイングが向上する持続可能な田園都市を目指します。

主な取組

- 成田二期北工業用地への企業誘致に取り組み、雇用の創出と地域経済の活性化を図ります
- 産官学の連携強化に努め、新規企業の立地を促進します
- 「富谷塾」などによる起業・創業支援の充実を図り、スタートアップ企業や社会課題・地域課題に取り組む起業家の創出に取り組みます
- 将来的な住宅需要を見据えた新たな住宅地（成田二期東・西地区、明石台東二期地区）を整備します
- 杉林から広葉樹への転換を推進する森林再生プロジェクトによる緑豊かな自然環境の保全と活用に取り組みます
- 市民協働による大亀山森林公園の活性化に取り組み、公園機能の充実を図ります
- 誰もが利用しやすく持続可能な公共交通サービスを構築します

上記の取組のほか、目標を達成するために必要な事業を行います

目標達成指標

指 標	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
市民の定住意向の割合	84.7%	86%

目標達成に向けた取組指標

指 標	現状値（令和6年度）	目標値（令和12年度）
成田二期北工業用地への企業誘致件数（累計）	—	6件
富谷塾等による起業件数（累計）	80件	130件
新規住宅団地の居住者数（明石台東地区、成田二期東・西地区）	1,794人 （令和8年1月末日時点）	4,500人

戦略2

とみやの魅力創出と交流人口拡大戦略

地域性を生かした新たな農産物への取組や、ブルーベリー・はちみつなどの特産品を生かしたスイーツ等の開発の支援を進めることにより、地域資源の高付加価値化とブランド力の強化を目指します。

また、歴史を感じさせるしんまち地区の景観の保全や、富谷宿観光交流ステーション・とみやなどの充実、「スイーツのまち とみや」、発酵のまちづくりなど地域資源を生かした取組を推進するとともに、市内外へ富谷の魅力を発信するシティプロモーションを強化し、交流人口の拡大を図ります。

併せて、ユートミヤを学びと交流の拠点として、新たな人のつながりとにぎわいを生み出します。

主な取組

- 富谷宿観光交流ステーション・とみやを中心としたしんまち地区の活性化に取り組みます
- 特産品であるブルーベリーやはちみつを積極的にプロモーションし、更なるブランド力の強化に取り組みます
- 様々な機能が融合するユートミヤの利用促進を図ります
- ユートミヤ内のスイーツステーションを拠点に、スイーツを軸とした魅力発信とコミュニティの醸成を図ります
- 市公式ホームページやSNSなどのデジタル媒体を活用し、富谷の魅力を市内外に積極的に発信します
- 市内企業と連携したふるさと納税等の新たな財源の確保に努めます

上記の取組のほか、目標を達成するために必要な事業を行います

目標達成指標

指 標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
年間の観光交流人口	206,771人	210,000人

目標達成に向けた取組指標

指 標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
富谷宿観光交流ステーション・とみやどの年間来場者数	171,206人	180,000人
ユートミヤの年間来館者数	— (令和8年度開館)	400,000人
市公式SNS登録者数	22,035件	28,500件

戦略3

市民力向上と人を呼び込む移住・定住促進戦略

若者や子育て世帯が安心して、妊娠・出産・子育てが行えるよう、切れ目のない子育てにやさしい支援や、子どもにやさしいまちづくりの推進、教育環境の充実、東北医科薬科大学・富谷メディカルセンター（仮称）の早期立地による地域医療・救急医療の充実などを図ることで、U/Iターン等による移住を促進します。加えて、高齢者や障がい者など誰もが生き生きと暮らせる地域づくりや、防災対策の充実など安全安心なまちづくりに取り組むことで、定住促進を図ります。

また、本市で活発に行われている市民活動への支援や市民参加の多様な機会を提供することにより、若者や女性の活躍、市民力の向上を促進するとともに、あらゆる世代の市民や団体、企業との協働や、産官学の連携をはじめとする多様な主体による協働を推進することにより、地域の活性化や関係人口の創出を図ります。

併せて、学び合いの学習やICTの活用などの時代に即した学びの提供、家庭・地域・学校・行政が連携した学校づくり等により、子どもたちの学ぶ力や豊かな心、富谷への愛着を育み、富谷で活躍する人材を育成します。

主な取組

- 東北医科薬科大学・富谷メディカルセンター（仮称）の早期立地による地域医療・救急医療の充実に取り組みます
- 安心して妊娠・出産・子育てが行えるような切れ目のない子育てにやさしい支援を推進します
- 教育環境の充実とグローバル化や高度情報化等の社会変化に合わせた子どもたちの学びを推進します
- 誰もが地域の一員として、お互いを尊重し、支え合いながら共に生きる取組を推進します
- 各種審議会等への男女のバランスの良い登用を推進します
- 地域課題の解決に向けた官民連携・産官学連携など多様な協働によるまちづくりを推進します

上記の取組のほか、目標を達成するために必要な事業を行います

目標達成指標

指 標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
住民基本台帳人口	52,411人 (令和7年3月末時点)	52,900人

目標達成に向けた取組指標

指 標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
乳幼児健診受診率（5歳児健診）	— (令和8年度から実施)	90%以上
つながっていない児童生徒ゼロ（長期欠席）	19人	0人
審議会等委員への女性登用率 (地方自治法第180条の5及び第202条の3に基づく審議会等委員)	52.9%	50%維持

横断的な
視点1

デジタルの活用による誰もが豊かに暮らせるまちづくりの推進

- デジタルの視点を取り入れた地域課題の解決を通じて、誰もが豊かに暮らせるまちづくりを目指します。
- 市公式SNSなどを活用して市の魅力や市民活動を市内外に発信することで、市民の誇りと地域への愛着を高めます。
- 行政手続きのDX化を推進し、市民サービスの向上を図るとともに、行政内部の業務効率化を推進します。
- 教育、子育て、交通、インフラ、医療など、豊かな生活を支える基盤的分野について、利用者の視点でデジタル化を推進し、安定的な行政サービスを提供します。

横断的な
視点2

産官学等の連携による地域の活力を増進するまちづくりの推進

- 産官学等の連携を通じて地域の活力を高め、持続可能なまちづくりを推進します。
- 多様な地域課題に対して、行政・企業・大学などの幅広い知見を集め、協働による解決を目指します。
- 産官学連携プロジェクトであるT3みちのく協議会の取組を推進し、雇用の創出や人材育成、地域と経済の活性化などを図ります。
- 東北医科薬科大学・富谷メディカルセンター（仮称）の早期立地により、周辺市町村の医療機関との連携を強化し、地域医療・救急医療の充実を図ります。